

新鳥取県史

資料編

古代中世2
古記録編

先人が歩んできた歴史を知ることが、現在の私たち自身を知ることにもつながります。本書が地方創生や地域づくりの一助として、多くの方々に活用され、本県の更なる発展につながれば幸いです。

終わりに、本書の刊行にあたり、貴重な資料を提供していただいた所蔵者・所蔵機関の皆様をはじめ、調査・編集に御協力をいただいた新鳥取県史編さん委員会古代中世部会委員の皆様及び関係各位に心からお礼を申し上げます。

平成二十九年三月

鳥取県知事 平井 伸 治

目 次

口 絵

序

目 次

解 説

第一部 銘文類

一 経典・奥書類

滝山経塚出土紙本経奥書（鳥取市）	9
渡辺美術館所蔵経筒銘（鳥取市）	10
大安興寺所蔵大般若経理趣品奥書（鳥取市）	10
新羅山経塚出土紙本経奥書（因幡志）	10
羽黒山経塚出土紙本経奥書（因幡志）	11
湯山谷経塚出土紙本経奥書（智頭町）	11
大日寺旧蔵大般若経銘（倉吉市）	12

二 造像銘・胎内文書

伯耆一宮経塚出土銅経筒銘（湯梨浜町）	12
三仏寺所蔵経典類奥書（三朝町）	12
莊嚴寺経塚出土紙本経奥書（三朝町）	14
八幡神社所蔵経櫃銘（米子市）	15
熊野神社所蔵大般若経奥書・経櫃銘（南部町）	15
善福寺所蔵大般若経奥書・経櫃銘（伯耆町）	16
慶珊寺所蔵大般若経奥書（神奈川県）	17
宇倍神社経塚出土紙本経奥書（東京都）	17
上ノ谷経塚出土経筒銘（東京都）	18
大日寺瓦経銘（東京都）	18
東京大学史料編纂所所蔵大般若経奥書（東京都）	19
青蓮院門跡所蔵経典類奥書（京都府）	19
奈良国立博物館所蔵法華経奥書（奈良県）	20
大田南八幡官所蔵経筒銘（鳥根県）	20
旧法美郡澄水村小堂薬師像胎内銘	
（因幡民談記）	21

正法寺本尊台座銘(鳥取市).....	21
船岡觀音堂正觀世音菩薩坐像銘(八頭町).....	21
西橋寺木造阿彌陀三尊像胎内銘(八頭町).....	22
青龍寺木造持国天立像胎内銘(八頭町).....	22
新興寺木造延命觀音像胎内銘(八頭町).....	22
大日寺木造阿彌陀如来坐像胎内銘(倉吉市).....	23
長谷寺木造文翁和尚像胎内銘(倉吉市).....	23
小鴨神社木造男神坐像胎内銘(倉吉市).....	23
地藏院木造地藏菩薩半跏像胎内銘(倉吉市).....	24
三朝町湯谷地区所藏木造狛犬銘(三朝町).....	24
三仏寺所藏諸仏像等銘(三朝町).....	24
智積寺所藏諸仏像銘(琴浦町).....	30
旧大山寺文殊堂掛仏裏面銘(米子市).....	31
瀬崎阿彌陀如来坐像納入文書(境港市).....	31
補岩寺木造阿彌陀如来坐像銘(境港市).....	31
大山寺所藏諸仏像等銘(大山町).....	31
白山神社十一面觀音坐像銘(南部町).....	35
長谷寺十一面觀音立像銘(神奈川県).....	36
三仏寺(三朝町).....	64
大神神社(北栄町).....	67
智積院(伯耆民謠記).....	68
貴布禰神社(米子市).....	69
坂本神社(米子市).....	70
八幡神社(米子市).....	71
日吉神社(米子市).....	74
宇田川神社(米子市).....	75
天神垣神社(米子市).....	79
三輪神社(米子市).....	81
日御碕神社(境港市).....	85
余子神社(境港市).....	87
熊野神社(南部町).....	90
小松神社(南部町).....	93
長田神社(南部町).....	95
旧白山神社(南部町).....	99
天萬神社(南部町).....	100
日御碕神社(南部町).....	101

三 棟札類

甘露神社(岩美町).....	37
八幡神社(岩美町).....	40
旧童動大明神(因幡志).....	41
杉谷神社(鳥取市).....	42
武宮神社(鳥取市).....	43
加知彌神社(鳥取市).....	44
旧日月大明神(因幡民談記).....	45
口佐治神社(鳥取市).....	46
大江神社(八頭町).....	47
野積神社(八頭町).....	50
和多理神社(八頭町).....	51
蛭井神社(智頭町).....	52
旧智頭妙見社(因幡民談記).....	54
大日寺(倉吉市).....	57
日吉神社(倉吉市).....	58
山守神社(倉吉市).....	60
長谷寺(倉吉市).....	62
赤猪若神社(南部町).....	104
賀茂神社(南部町).....	105
福田正八幡宮(南部町).....	110
賀茂神社(伯耆町).....	111
植松神社(伯耆町).....	112
大山寺(大山町).....	113
下山神社(大山町).....	123
樂々福神社(日南町印賀).....	125
樂々福神社(日南町宮内).....	126
三所神社(日南町).....	127
石見神社(日南町).....	128
根雨神社(日野町).....	129
賀茂神社(日野町).....	130
菅福神社(日野町).....	133
神田神社(日野町).....	137
聖神社(日野町).....	138
江美神社(江府町).....	142
佐川神社(江府町).....	145

鰐淵寺(鳥根県).....146

四 金工品

旧阿代寺鐘銘(岩美町).....148
 清泉寺鰐口銘(鳥取市).....148
 瀧山寺鰐口銘(鳥取市).....148
 国英神社鐘銘(鳥取市).....148
 大塚薬師堂鰐口銘(鳥取市).....149
 旧大永寺鰐口銘(因幡民談記).....149
 旧仙林寺鐘銘(因幡民談記).....149
 旧松上大菩薩鐘銘(因幡民談記).....150
 旧多聞山神宮寺金剛盤銘(因幡志).....150
 多宝寺鐘銘(八頭町).....150
 旧長砂村大日堂鰐口銘(因幡志).....150
 駒場地区公民館鰐口銘(智頭町).....151
 長谷寺鐘銘(倉吉市).....151
 地藏院擬宝珠銘(倉吉市).....151
 旧定光寺鐘銘(伯耆民談記).....152

三仏寺鸚鵡花綬鏡銘(三朝町).....152
 三仏寺文殊堂内銘(三朝町).....152
 旧山田八幡宮鐘銘(伯耆民談記).....152
 智積寺鐘銘(琴浦町).....153
 旧瑞仙寺鐘銘(伯耆志).....153
 大山寺鉄製厨子銘(大山町).....153
 大山寺鉄燭台銘(大山町).....154
 旧大山寺四鏡銘(大山町).....155
 鉄造聖観音立像・鉄造十一面観音立像光背銘
 (南部町).....155
 伊福吉部徳足比売骨藏器蓋銘(東京都).....155
 鳥取市正蓮寺出土鰐口銘(東京都).....156
 旧仙林寺玉幡銘(東京都).....156
 金藏寺鐘銘(兵庫県).....156
 加茂神社鰐口銘(兵庫県).....157
 鰐淵寺鐘銘(鳥根県).....157
 光明寺鐘銘(鳥根県).....158
 愛宕神社鐘銘(鳥根県).....158

清水寺鰐口銘(鳥根県).....159
 迎接寺鐘銘(鳥根県).....159
 西光寺鐘銘(福岡県).....160
 旧稻荷大明神鐘銘.....161

五 石造物

二上峯地藏銘(岩美町).....162
 湊神社阿弥陀三尊種子板碑銘(鳥取市).....162
 一行寺宝篋印塔銘(鳥取市).....162
 長源寺宝篋印塔銘(八頭町).....163
 新興寺宝篋印塔銘(八頭町).....163
 智頭町口波多五輪塔銘(智頭町).....164
 河村神社宝篋印塔銘(智頭町).....164
 不入岡石仏銘(倉吉市).....165
 会下谷宝篋印塔銘(倉吉市).....165
 定光寺宝篋印塔銘(倉吉市).....166
 琴浦町所在石造物銘(琴浦町).....167
 観音寺五輪塔銘(北栄町).....167

大山町野田石造物銘(大山町).....168
 助沢五輪塔銘(江府町).....168
 江府町内所在石造物銘(江府町).....169
 印賀宝篋印塔銘(日南町).....169
 旧大日寺五輪塔銘(京都府).....170

六 その他

豊乗寺柏竹之図(智頭町).....171
 旧能引寺琵琶裏銘写(因幡志).....171
 定光寺尼子経久画像讚(倉吉市).....171
 小嶋神社扁額銘(倉吉市).....172
 長谷寺絵馬銘(倉吉市).....173
 三仏寺参籠札銘(三朝町).....174
 大山寺中門院御旗書付写(大山町).....174
 旧若桜光福寺太鼓内銘(鳥根県).....174
 相応峰寺両界箱銘(兵庫県).....175
 富田八幡宮能面銘(鳥根県).....175
 榊山八幡神社能面銘(広島県).....176

解題

177

第一部 記録・典籍類

一 神話・史書・風土記

古事記

235

先代旧事本紀

237

日本書紀

238

続日本紀

239

日本後紀

250

続日本後紀

252

日本文徳天皇実録

256

日本三代実録

259

類聚国史

273

本朝世紀

283

日本紀略

287

百鍊抄

290

扶桑略記

291

二 日記

帝王編年記

292

出雲国風土記

293

播磨国風土記

295

九曆

297

小右記

298

権記

314

左経記

316

水左記

317

後二条師通記

318

中右記

319

時範記

338

殿曆

341

永昌記

343

長秋記

344

台記

350

兵範記

351

山槐記

357

仙洞御移徙部類記

362

吉記

364

玉葉

368

三長記

375

猪隈関白記

376

明月記

378

民経記

379

平戸記

389

葉黄記

390

経俊卿記

394

岡屋関白記

396

吉統記

396

勘仲記

397

公衡公記

398

実躬卿記

401

匡遠記

402

祇園執行日記

403

園太曆

403

師守記

411

賢俊僖正日記

414

後光厳天皇日記

414

兼敦朝臣記

415

実冬公記

417

教言卿記

417

康富記

418

藤戒記

420

満濟准后日記

422

建内記

424

善法寺家引付

428

看聞日記

429

蔭涼軒日録

429

斎藤基恒日記

471

東寺執行日記

472

師郷記

472

経覚私要鈔

473

大乘院寺社雜事記	476
碧山日錄	483
永豐卿記	486
實遠公記	487
齋藤親基日記	487
親元日記	490
後法興院閔白記	494
山科家礼記	497
親長卿記	498
長興宿禰記	501
実隆公記	501
御湯殿上日記	503
晴富宿禰記	505
雅久宿禰記	507
十輪院内府記	508
蔗軒日錄	508
北野社家日記	509
妙音院朝乘五師日並	515

鹿苑日錄	517
忠富王記	518
宣胤卿記	518
後法成寺閔白記	520
嚴助往年記	521
二水記	521
言繼卿記	522
大館常興日記	524
天文日記	526
兼右卿記	526
多聞院日記	527
言經卿記	529

三 符案・引付

迎陽記	530
宣秀卿御教書案	531
文龜御即位記	532
資定一品下知草	533

政所方御奉書引付	534
諸狀案文	535
昔御内書符案	536
御内書案	537
室町家御内書案	538
御内書符案	538
政所方引付	539
康正二年造内裏段錢并園役引付	540
政所内談記錄	541
政所賦銘引付	542
結番日記	543
賦引付	543
伺事記錄	544
証如上人書札案	544
鵜莊引付	545

吾妻鏡	546
鎌倉年代記	556
大乘院日記目錄	557

(二) 神社・神道

重校神名秘書	558
神鳳鈔	559
大日本國一宮記	560
石清水八幡宮末社記	560
二十二社註式	562
延喜式神名帳頭註	562

(三) 寺院・仏教

岩屋寺快円日記	563
造興福寺記	578
書写山行幸記	578
東福紀年録	579
本福寺跡書	579
本福寺門徒記	580
羽賀寺年中行事	581

四 記 録

(一) 年代記

鹿苑院公文帳	581
扶桑五山記	582
(四) その他	
糺河原勦進猿樂日記	582

五 紀行

中務大輔家久公御上京日記	584
九州道記	585
廻国通道日記	586
大智院宗派之口面書	588

六 法令・政務・補任

新抄格勅符抄	590
弘仁式	591
延喜式	592
類聚三代格	601
令集解	605
続左丞抄	607

別聚符宣抄	608
類聚符宣抄	611
朝野群載	611
本朝統文粹	615
公卿補任	616
魚魯愚抄	624
長徳二年大間書	632
享徳二年大間書	633
歴名土代	633
建武年間記	634
雑訴決断所結番交名	635
職原抄	635
百寮訓要抄	636
九条年中行事	636
小野宮年中行事	637
年中行事秘抄	637
桃花藥葉	638
關東評定衆伝	638

永享以来御番帳	639
文安年中御番帳	641
長祿二年以来申次記	643
長享元年九月十二日常徳院殿様	
江州御動座當時在陣衆着到	644
慈照院殿年中行事	646
年中恒例記	646
細川家書札抄	647
大館常興書札抄	648
伊勢貞助記	651
伊勢家書	652

神皇正統記	708
梅松論	709
関城書裏書	712
増鏡	713
峰相記	718
明徳記	720
神明鏡	725
嘉吉記	726
応仁記	728

七 実録・雑史・軍記物語

源平盛衰記	655
愚管抄	659
古本伯耆卷	659
舟上記	677
太平記	686

八 系図・縁起・伝記

因幡国伊福部臣古志	733
山名系図	738
賀露神社縁起	738
摩尼寺縁起	740
曹源寺御開山由来記	743
大山寺縁起	746
大山寺縁起詞書	782

因幡堂薬師縁起 (東京国立博物館所蔵)	798	東寺過去帳	828
因幡堂薬師縁起 (東寺観智院所蔵)	801	九 和歌・説話・文学作品	
尊重護法寺縁起	812	古今和歌集目録	829
惟賢比丘筆記	813	新古今和歌集	830
類聚既驗抄	814	草庵集	830
元亨釈書	814	草根集	831
続本朝往生伝	817	下つふさ集	847
拾遺往生伝	817	金言和歌集	847
後拾遺往生伝	819	井蛙抄	848
本朝新修往生伝	819	連歌新式奥書	849
三輪上人行状	821	梁塵秘抄	849
阿婆縛抄明匠等略伝	821	本朝法華験記	850
一遍聖絵	822	今昔物語集	851
一遍上人年譜略	824	地藏菩薩靈験記	853
聖一国師法嗣列祖記	824	宇治拾遺物語	855
孤峰和尚行実	825	撰集抄	857
海蔵和尚紀年録	826	古今著聞集	858
南海和尚伝	827	友山録	877
徒然草	858	村庵藁	878
高野物語	859	東海瑠華集	879
一〇 五山文学・抄物		惟肖巖禪師疏	884
早霖集	865	黄龍十世録	885
济北集	866	流水集	886
松山集	867	秃尾長柄帚	887
天柱集	867	半陶文集	891
東海一漚別集	868	雪樵独唱集	895
空華集	868	異本黙雲稿	896
峨眉鴉臭集	870	天隠和尚文集	897
雲壑猿吟	870	黙雲藁	899
懶室漫稿	871	松山序等諸師雜稿	904
真愚稿	871	続翠詩集	905
不二遺稿	872	続翠詩集	905
翰林葫蘆集	873	心田播禪師疏	905
補庵京華集	874	心田詩藁	906
京花集	877	心華詩藁	907

幻雲文集……………907
 中叟和尚偈……………910
 仏智大通禪師語録……………921
 夢巖和尚語録……………922
 智覚普明国師語録……………923
 蟬庵稿……………923
 大宗禪師語録……………924
 玉麈抄……………925
 詩学大成抄……………928
 作物記抄……………929

一一 雜

塵袋……………930
 諸国鍛冶寄……………931
 輔仁本草……………933

一二 海外史料

海東諸国記……………934

朝鮮王朝実録……………935
 籌海図編……………937
 日本教会史……………938
 解題……………939
 国司一覽表……………1033

古文書編 補遺

県内文書編

大雲院所藏法華経紙背文書……………1063
 鳥取県立博物館所藏文書……………1072
 寺坂家所藏文書……………1073
 小鴨神社文書……………1073
 大山寺洞明院所藏文書……………1074

県外文書編

広橋家旧藏記録文書典籍類(千葉県)……………1077

「民経記」紙背文書(千葉県)……………1081
 桂家文書(東京都)……………1082
 「玉燭宝典」紙背文書(東京都)……………1083
 「九条家本除目抄」紙背文書(東京都)……………1083
 「三箇院家抄」紙背文書(東京都)……………1084
 三条西家文書(東京都)……………1084
 集古文書(東京都)……………1085
 「高倉永豊卿記」紙背文書(東京都)……………1085
 「高松帖」所収文書(東京都)……………1085
 「南行雜録」所収文書(東京都)……………1086
 日野家領文書写(東京都)……………1086
 「師郷記」紙背文書(東京都)……………1088
 「師守記」紙背文書(東京都)……………1088
 「康富記」紙背文書(東京都)……………1093
 称名寺所藏文書(神奈川県)……………1094
 滝谷寺文書(福井県)……………1094
 勧修寺文書(京都府)……………1095
 「祇園社記」所収文書(京都府)……………1095

来田文書(京都府)……………1097
 醍醐寺文書(京都府)……………1099
 大聖寺文書(京都府)……………1101
 二尊院文書(「後鑑」所収)……………1101
 三上家文書(京都府)……………1102
 鹿王院文書(京都府)……………1102
 橋本卓容氏所藏文書(大阪府)……………1102
 正倉院文書(奈良県)……………1103
 双柏文庫所収文書(奈良県)……………1110
 藩中諸家古文書纂(山口県)……………1110
 益田高友家文書(山口県)……………1110
 「大和家藏書」所収文書(山口県)……………1111
 東郷莊下地中分図裏書(鎌倉遺文)……………1111
 「実躬卿記」紙背文書(大日本古記録)……………1111
 某所藏文書(古典籍下見展観大入札会目錄)……………1112
 某所藏文書……………1112
 (明治百年大古書展即売展観出品目錄)……………1112

資料提供者・協力者

関係者名簿

解 説

一 本書の編さん方針

新鳥取県史編さん事業では、鳥取県域に関わる重要な歴史・民俗資料を調査収集し、それらの成果を集成した資料編の刊行を進めている。このうち古代中世部会では、書状・証文等の古文書を集成した「古文書編」と、日記・年代記等の記録や寺社縁起・伝記・文学作品等の編纂物および棟札・金石文等の銘文を集成した「古記録編」の二巻を刊行する計画である。今回刊行した『新鳥取県史資料編 古代中世2 古記録編』（以下、『古記録編』と略す）は、その最終巻として刊行するものである。

はじめに、『古記録編』の全体の編さん方針について述べておきたい。

戦後歴史学においては、おおよそ一九六〇年代までは、史料といえは「古文書」が中心であった。「古文書学」という学問分野が確立し、様式論を中心に活発な議論が繰り広げられる一方、日記や金石文など古文書以外の史料はいわば古文書を補助するものと位置づけられていた。しかし、一九七〇年代から、古文書だけではなく「歴史情報を包含するあらゆる媒体を『史料』として認識し、その歴史情報を最大限かつ正確に引き出すための方法大系」が必要であるとして「史料学」という概念が生まれ、記録等の文献資料や文学資料・系図・絵画資料・民俗資料・考古資料・建築資料等多種多様な資料に含まれる歴史情報に注目して、立体的に歴史像を構築することが重要であるとの認識が広がった。このような考え方は現在の歴史学の世界においても共有されているところである。そして、一九八〇年代以降、「史料学」は現用公文書や電子記録を含めた記録総体を対象とする「アーカイブズ学」へと新たな展開を見せ、